

OKoTaC 通信

オコタッパ

2012年4月10日発行

NO.4



目次

NPO 活動報告

『高校生活オリエンテーション』	p2
『トランスナショナルな子どもたちの教育を考える』	p3
文化庁委託事業『高校生のための日本語 春期講座』	p4
多文化な子ども@大阪のニュース	(p2~3)
『人権文化発表交流会』『春節の会』	
海外子ども事情『ニューヨーク市高校訪問記③』	p5
Air Mail メキシコ便り④『ホンジュラス』	p6
地域の子ども支援教室から④	
『子どもほっと』(箕面市)	p7
ご寄付ありがとうございました	p7
イベント情報	p8



『高校生活オリエンテーション』

3月26日(土)、大阪府立今宮工科高校で、4月から高校生活を始める“トランスナショナルなピカピカの新1年生”を対象に「高校生活オリエンテーション」が開かれました。

当日は朝から雨が降るあいにくの天気だったため、欠席者が多いかも知れないという主催者側の心配をよそに14校から新1年生とその保護者、関係各校の先生方、通訳者など、総勢63名の参加となりました。

「高校生活オリエンテーション」は、高校生活を送る上で必要な情報を十分に持たない生徒に、高校生活での不安を払拭し、楽しく学校生活を送ってもらえるよう、毎年大阪府教育委員会と大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)が行っているイベントです。

内容は大阪府立高校でのルールや進路選択についての説明、そして高校生活に関するDVDの観賞などでした。また、保護者に対するオリエンテーションとしては、学費や奨学金制度についての情報紹介でした。そして、長吉高校の柳澤先生(日本語教育)からは、参加した各学校の日本語指導担当者に、対して教材の選択方法や、情報収集のためのリンク紹介など、現場で役に立つお話があり、また日本語指導者からは現場での指導に関する悩みなどが出され、普段疑問に思ったり悩んだりしていることを共有する良い機会にもなりました。



その後、休憩をはさんで、卒業生の話があり、3人の卒業生が自らの高校生活をふりかえりながら、生き生きと体験談を語ってくれました。そんな中のひとり、若いながらもタイレストランを運営していますが、「学ぶことは続けていきたいし、将来は大学にいくかも知れない」と語りました。またこのオリエンテーションの次の日に最終面接を控えているという、まさに就活まっただ中の先輩や、4月から大学生になる先輩の話に、生徒や保護者の方たちは強くひきつけられたようです。

今回参加した新1年生の嬉しそうな笑顔を見て、このプログラムの意義を感じた1日でした。(O.Y)



多文化な子ども@大阪 のニュース

『人権文化発表交流会』

2月4日、大阪府教育センターで人権文化発表交流会が開催されました。これは、大阪府教育委員会と教育センターの主催で、人権が尊重された学校づくり推進を目的として毎年開催されている催しです。人権作文、展示発表、舞台発表各部門に分かれて、府立高校、支援学校の生徒がさまざまな表現方法で活動の成果を発表しました。



例年、外国にルーツを持つ高校生が作文や舞台発表などで参加しており、今回も、門真なみはや高校の「中国武術とフィリピンの歌」、桃谷高校の「サムルノリ」、布施北高校の「ダンス」、長吉高校の「ダンスと舞踊」、住吉高校の「サムルノリ」、成美高校の「龍・獅子舞ほか」の発表と、府立外教(大阪府立学校在日外国人教育研究会)主催のWaiWai!トークpart2で特別賞を受賞したフィリピンにルーツを持つ生徒のスピーチがありました。

外国にルーツを持つ生徒以外には、支援学校や自立支援コースの生徒による演劇や歌、府立高校生によるボランティア活動の報告や手話コーラス、府立人研(大阪府立学校人権教育研究会)主催のヒューマンライツフォーラムの報告など、多彩な発表を見ることができました。



会場となった教育センター大ホールはほぼ満席。日頃は別々のところで活動している生徒たちが集まり、お互いの成果を確認し合う場となりました。外国にルーツを持つ高校生たちも、いろいろな人権活動に触れることができ、いい経験になったことでしょう。(Y.O)



『トランスナショナルな子どもたちの教育を考える —外国にルーツを持つ若者からのメッセージ—』

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター、(特活)多文化共生センター大阪、
NPO 法人おおさかこども多文化センター

2月4日土曜日の午前中、ワンワールドフェスティバルの企画として、「トランスナショナルな子どもたちの教育を考える—外国にルーツを持つ若者からのメッセージ—」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。当日は、約90人の来場者があり、大盛況の催しとなりました。

それぞれ異なる事情で来日した4人の外国にルーツをもつ若者を招き、彼らのライフストーリーを紹介するとともに、パネルディスカッションを通して、各人の想いを届けてもらいました。



アフガニスタンから難民として、イラン、そして日本へ移動してきた大学生、中国残留孤児の祖父を持つ高校生、ベトナム難民の両親を持つ大学生、ペルーからデカセギの母親と一緒に子どもの頃に来日した社会人。それぞれから、日本に来てよかったこと、苦労したこと、日本社会に求めること、将来の目標や後輩へのメッセージなどについて話してもらいました。4人はいじめなどの辛い経験をしながらも、周りの人たちのサポートを受け、勉強や部活に打ち込んだ経験を率直に語ってくれました。

異文化や言葉の壁を幼いころに経験し、それを乗り越え、自分のルーツを大切にしながら成長してきた彼、彼女らに、日本社会に埋もれてしまうのではなく、これからの日本の未来を切り開くための鍵になってほしいと私は感じました。同じ地で育ちながら、私とはちがう視点でこの国を見ている彼、彼女たちだからこそ、見えてくる日本の未来があるのではないかと。そんな未来をともに作っていきたい。そして、彼、彼女らの想いをこれからもっと多くの方に伝えていきたい。言葉や学習文化のちがいは大きく、日本で学び、成長していくためにはたくさんの壁があります。しかし、その壁を低くし、乗り越えるためのサポートを続けていくことが必須です。「支援が必要な子ども、大変な子どもだから助けてあげよう」という視点ではなく、彼、彼女らを「国際社会で日本が成長するための鍵であり新たな可能性」と捉え、投資し、育てることが必要だと思います。外国にルーツを持つ若者が活躍できる場づくりをすることは今後の日本社会にとってもプラスになる、そう感じることでできる貴重な時間となりました。これからもいろいろな方にお力をお借りしながら、このような場づくりに貢献できればと思います。

(特活)多文化共生センター大阪 事務局長 田中 裕子



多文化な子ども@大阪のニュース

友達の輪を広げる『春節の会』開かれる

府立高校に在籍する中国帰国・渡日生が集う「春節の会」が2月11日、12日に1泊2日で奈良ユースホステルにおいて行われました。参加校は門真なみはや高校と八尾北高校の2校のみでしたが、付き添い教員を含め参加者は78名にのぼり、歌ありコントありダンスありの楽しいひとときを過ごしました。私は毎年、引率者として参加していますが生徒たちのレベルの高い歌唱力、演技力にはいつも驚かされています。



「中国帰国・渡日生交流会」は、1990年、当時はまだ少数であった中国帰国生たちが集まって発足し、教員のサポートを受けながら、5月の「新入生歓迎会」(現在は府立外教の交流会に合流)と2月の「春節の会」を中心に交流を深めてきました。現在ではいわゆる特別枠5校には多くの中国帰国・渡日生が在籍し、それぞれの学校で中国人教員が教壇に立ておられ、「春節の会」には毎年100名近くの中国帰国・渡日生たちが参加し、貴重な時間を過ごしています。これは交流会開始当初に比べると格段の違いです。しかし、そんな中でも、特別枠校以外のいわゆる少数在籍校では孤立して耐えている生徒たちが多くいると思います。来年の「春節の会」には、そのような学校からも多くの生徒が参加してくる形を考えると必要があると思います。(Y.H)



23年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育」委託事業

『高校生のための日本語 春期講座』

春休みを利用して、3月15日、16日、17日の3日間、大阪市立港区民センターで文化庁委託事業『高校生のための日本語講座』を開催しました。今回の講座は、①午後のグループ指導とは別に午前中の個別指導 ②日本語教育を指導されている大学教員や、日本語教育のプロフェッショナルな講師を招いての日本語指導 ③大阪府立高校前期入試で合格して、4月から高校に入学する生徒の参加 ④日本語指導の必要な高校生のリクエストから、オノマトペ(擬声語、擬態語)、数字の読み方、敬語の使い方を取り入れたプログラム ⑤将来職業を選択する上で必要なキャリア教育を取り入れた日本語指導でした。



中国語、スペイン語、ベトナム語、タイ語、ロシア語の生徒23名、在籍高校および入学する高校5校からの参加で初日の15日を迎えました。異なった高校や新入生との交流もあり、最終日の『10年後の私』の作文・発表は、指導者、指導補助者ともども大変盛り上がりました。たった3日間の日本語指導ですが、異なった文化・言語をもつ生徒と一緒に、学校で学ぶ日本語とは異なった観点から日本語指導を受けることで、各自いろいろな気づきがあったと思います。孤立しがちな渡日生が繋がり、力を得ていくことを願っています。

今回、講師補助として協力していただいた中国からの留学生の秦暎麗さんが次のような感想文を寄せてくださいました。

(Y.M)

「高校生のための日本語 春期講座」に参加して

私は日本の大学院に在籍する中国人留学生として、日本語を母語としない高校生を指導する日本語講座に今回はじめて参加し、講師の先生方の補助をさせていただきました。

最初クラスに入ったとき、学生のみんがほとんど中国語で会話をしているのを見て、中国からの学生がこんなに多いとは予想しておらず、本当に驚きました。先生からお聞きした話では、みんなはその大半が中国残留孤児の子どもたちか、父母の仕事の関係で来日していて、関西地方では大阪に住んでいる中国人が一番多いことを知りました。



この日本語講座では、普段学生たちが学校で習っているものとは違うだろうと思われる内容を、先生方がユニークな発想と分かりやすい教え方で指導されていました。それらは、学校での活動や日本で生活するための基礎知識としてとても役に立つ内容だと思いました。また、それぞれ異なった学校から来ている学生が集まることで、相互の親睦を深めるだけではなく、積極的に勉強することに取り組む学生も増えたのではないかと思います。

また、私自身も多くのことを学びました。最後の日の作文指導で私が担当した学生の1人は、とても内向的で、人と話すことが苦手な学生でした。しかし、「10年後の私」という作文を、私にいろいろと相談しながら書き上げる間、その学生はずっと笑顔を決やしませんでした。私は、学生たちがみんな表現したいことを持っていて、この活動によって書きたいという気持ちが引き出されたのだと思いました。そして、解散する時、その学生に「先生、ありがとう」と言われ、私は人の役に立てることに喜びを実感しました。

今回の機会はいろいろな意味で私にとって大変貴重な体験となりました。参加できて、本当によかったと思います。

(秦 暎麗)



海外子ども事情

『ニューヨーク市高校訪問記 ③』

(桃山学院大学国際教養学部、

おおさかこども多文化センター会員・友沢昭江)

これまでにNY市の高校全般(その1)、移民教育で実績を上げている高校の歴史や概要(その2)を取り上げました。最終回はその高校の授業を中心に述べたいと思います。

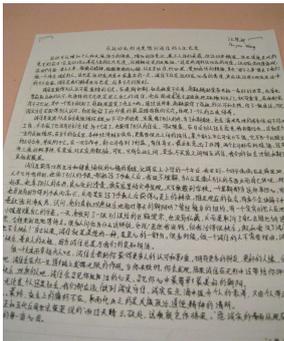
マンハッタンにあるリバティー高校では中国系生徒の数学と社会の授業を見学しました。廊下に流暢な中国語が聞こえてきた教室に入って驚いたのは数学担当のロウアー先生。美しいブロンドに黒縁のしゃれた眼鏡、アイロンのきいた黒のシャツとパンツにネクタイ。若い男性の先生が「逆関数(inverse)」を導入していました。先生自作のスライドは重要な用語(「反比」:日本語で「反比例」の意味)などの中国語も含みつつ基本英語で書かれていますが、概念説明は生徒の母語である中国語を駆使して行っていました。生徒とのやり取りも中国語で十分に行い理解が確認できた段階で、次に簡明な英語で説明を加え問題を出して行きます。理解ができた生徒たちは次々に解答をしますが、少しは英語に自信のある私にもスピードが速く、ついていけないほどでした。生徒にとって若く素敵なお白人の男性の先生が自分の母語を使って教えてくれるという経験は、どれほど安心して誇りに思えることでしょう。ロールモデルとしても効果は大きいと思われました。



大好きなロウアー先生と一緒に

社会担当の上海出身の女性の先生はヨーロッパ封建時代について英語と中国語で黒板いっぱいキーワードを板書し中国語で説明していました(「serf」=「農奴」、「pay homage」=「效忠」(日本語では「忠誠を誓う」)

など)。生徒にとって専門用語はむずかしいけれど、卒業試験に必須であるし英語力とともに学科目理解もめざすので大変です。生徒は中国でも田舎の出身者が多く、教師が大卒でない場合も多いので受けてきた教育とのギャップを埋める必要があるとのことでした。入学当初は学力も低く他校では居場所のない生徒も、ここでは自分に自信をもって学べるという言葉通り、教室には生徒たちが書いた中国語のエッセイ「誠信の人生支度」が張り出してありました。びっしりと小さな文字で書かれた作品は、英語主流の学校では見出すことのできない生徒たちの言語力の証でした。



壁に掲示された中国語のエッセイ(字がぎっしり)

ロウアー先生は学部時代に外国語として中国語を選択し、卒業後に北京師範大学で1年間中国語を集中的に学んだそうです。中国語の読み書き能力は会話能力

よりは劣るけれど、数学を教える程度であればまったく問題なく、生徒とのディスカッションも中国語でこなせるそうです。彼は大学院で NY 州の定める教職課程を修めたのちに州の教員資格を取得しましたが、このコースが最も一般的です。ただ生物、数学、歴史、ESL(第二言語としての英語)を教えるには特定の免許が求められ、二言語で教える場合にはさらに別の免許が必要です。ロウアー先生は数学と歴史の免許は取得していても二言語の免許は持っていません。しかし、休職中の教師の代理として1年間のみの契約で働いたということです。州の規定では免許保持者がどうしても見つからない場合、短期的な雇用については認められています。教育実習を、このリバティー高校で行い(アメリカの実習は最終学期一学期間と長い)、その際に高い評価をもらったこともここで教えることが認められた理由だろうと話していました。社会科の先生も中国の大学を卒業したのちアメリカの大学院で学び、その後教員免許を取得したとのことでした。国籍や母語に関わらず、所定のコースを修めることで教員という職業が誰にでも開かれているという、あまりにアメリカ的な景色がここでも見られたわけです。

リバティー以外でもユニークな授業を展開している高校を訪問しましたが、紙面の関係上触れることができませんでした。また別の機会にご紹介できることがあることを願っています。(おわり)



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便④「ホンジュラス」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

我が家の前にある教会のフェリアのお陰でほとんど勉強できなかったにもかかわらず、何とか進級できた後は、さあ2週間のバカンスです。ホンジュラスに行ってきます。ホンジュラスは JICAに勤める友人がくれた今年の年賀状に「ホンジュラスに赴任することになりました。近くに来られることがあれば是非お寄り下さい。」とあったので「近くに行くでー」とばかりに訪問することになりました。それまでどこにあるかも知らなかった国でしたが、初めて地図で探してみました。メキシコのとなりがグアテマラ、そのとなりがホンジュラスでした。ニカラグアと並んで中米の最貧国のひとつだそうです、メキシコとは違ったラティーノの姿を見ることができるだろうと、胸わくわくで飛行機に乗りました。

ホンジュラスはメキシコと同じラテンの国とはおもえない程、地味な国でした。首都テグシガルパの空港はとて小さく、搭乗口も4、5ヶ所くらいしかなかったと思います。街も小さく、高級住宅街のまわりには山肌にはりつくようにバラックの家々が頂上ちかくまで建っていました。よく停電や断水があるらしく、私の友人の家ではいたるところにきれいにデザインされたろうそくが置かれ、大きな水のタンクが常備されていました。ここにはコパルイナスというマヤ文明が栄えた時代の大きな遺跡があります。もちろん世界遺産にも登録され多くの観光客が訪れる場所なのですが、バスで8、9時間かかります。遺跡かカリブ海か、さんざん迷ったあげく飛行機で45分のカリブ海沿岸のラ・セイバという港町に行き、ここからウティラ島に渡ることにしました。



ラ・セイバは明るい陽光がさんさんと降り注ぐ街で、黒人の比率がぐんと高くなります。街には多くの露天が並び、あふれんばかりの野菜や果物が売られていました。店のおばあちゃんと話し込んでいると、学校から帰ってきた孫のカテリーナちゃんがそっと椅子をもってきてくれました。デジカメで彼女の写真を撮ってすぐに画面を見せると、私も私も子どもたちが寄ってきます。そして画面に映った自分の姿に大喜びです。ここでは学校は昼までで終わり。そして子どもたちは昼からは働きにでます。市場や路上でいろいろな物売ります。よく働き、よく笑うとてもかわいらしい子どもたちでした。

ウティラ島はラ・セイバから船で1時間。ダイビングのライセンスが安くとれるということで、欧米から多くの人々が来ていました。海は透き通るようなエメラルドグリーンで私もさっそく泳ぎました。でも美しいといわれる浜までは宿から遠く、バスなどの交通手段がなかったので歩いていける港の近くの海岸で泳いだのですが、ここはゴミが多くちょっと残念でした。そしてやっぱりやられました。蚊の大群です。100ヶ所くらいは刺されたでしょうか。現地の人は刺さないのに観光客の血はおいしいのでしょうか。しかし、これだけ刺されてもデング熱にならなかったのはすごいことだと、帰ってから友人に感心されてしまいました。そう私は悪運の強い人間なのです。

ま、このように楽しくもかゆい経験をしたホンジュラスでしたが、私がこの国にいちばん感じたことは、はがゆさでした。すばらしい観光資源があるにもかかわらず、交通手段が整っていません。コパルイナスにも、となりのグアテマラからの方が近いのでそっちに人が流れています。カリブ海のように美しい海と島があるのですから、ハリケーンで倒れた家をそのままほっとかないで、こぎれいにしたら、メキシコのカンクンとまではいなくても、もうちょっとは観光客も呼べ、国も豊かになるのではと、まるで行政官のように頭のなかにいろいろなプランを描いてしまいました。人々は朝早くからよく働き、メキシコ人のような底抜けの陽気さはありませんでしたが、少し、はにかみながらも、とても親切にしてくれました。





「子どもほっと」～外国にルーツを持つ子ども達の居場所として（箕面市）

箕面市内の小中学校には100人を超える外国にルーツを持つ子ども達が通っているといわれています。子ども達を取り巻く環境や背景、言葉、文化も様々です。また、箕面市は外国人住民の少数点在地域ということもあり外国にルーツを持つ子ども達が繋がりをもちにくいという地域的な課題もあります。

「子どもほっと」は箕面市と(財)箕面市国際交流協会との共催事業で、外国にルーツを持つ小学生から高校生までの子ども達の学習支援と居場所作りを目的として活動しています。



現在「子どもほっと」に参加している子ども達は、ブラジル、ロシア、フィリピン、韓国、中国、ネパール、インド、メキシコなどルーツも様々です。ボランティアさんと一緒に毎週土曜日10:00～12:00まで1時間、日本語の勉強をしたり学校の宿題をし、勉強が終わると残りの1時間は自分たちのしたい遊びやおしゃべりなどをしています。13:00～16:00までは、学習サポーターのボランティアさんと一緒に中高生が自主学習や受験のための勉強をします。夏休みや冬休みにも学習サポートをしています。また、春の遠足や多文化ユース・サマー

キャンプ、箕面市国際交流協会主催の多民族フェスティバルへの屋台の出店、ピニャータ割り大会、年末のお楽しみ会、卒業お祝い会などのイベントを企画し、子ども達の仲間作り、ネットワーク作りのサポートも行っています。

「子どもほっと」の「ほっと」とは「ほっとする」、「安心する」の意味です。

子ども達の中には日本語が話せるようになっても、家庭で母語を話していれば漢字や学習言語(学校の勉強の中では使われるが、日常会話ではあまり使われない言葉)があまり習得できておらず学校での勉強が「苦手」と悩んでいたりと、学校などで文化の違いから「周りに合わせなければ」と悩み、「自分らしさ」を出せず孤立していたりする場合があります。

外国にルーツを持つ子ども達が、日本語を習得するだけでなく慣れない環境の中での悩みを打ち明けられる「安心できる場」としての「子どもほっと」、子ども達が集まり出会うことによって「支えあう場」としての「子どもほっと」をこれからも目指し、取り組んでいきます。

(財団法人 箕面市国際交流協会(MAFGA) 事業課長補佐 河合大輔)

連絡先: TEL:072-727-6912 FAX:072-727-6920

E-mail: info@mafga.or.jp URL http://www.mafga.or.jp



ほっと君



おおさかこども多文化センターより～ご寄付ありがとうございました！

入居していた大阪港の piaNPO ビル閉鎖に伴い、当 NPO は去る 1 月末に、現在の本町の事務所に移転してきました。その引越の際に必要な経費として寄付のお願いをさせていただきましたところ、たくさんの方からのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。この紙面を借りて、平成 23 年度(2011.4.1～2012.3.31)にいただきました寄付のご報告をさせていただきます。(50 音順・敬称略)

★ご寄付者名: 安野勝美、鶴飼聖子、内田美由紀、大倉安央、金月由紀子、久利司、小林悦子、小森恵、阪本敏彦、澤田幸子、鈴木田弘子、高良昇、坪内好子、寺嶋辰美、富田公一、友延秀雄、梨木亜紀、橋本光能、橋本義範、樋口裕子、平木雅己、広原知津子、増井奈穂美、松本尚子、村上自子、矢嶋ルツ、安田乙世、柳澤勤、山下知延、吉田健一、〔計 42 件 総額 417,590 円〕

★切手・書き損じハガキご寄付: 内田美由紀、寺尾美登里、K.N、吉田美美

なお、引越しに伴う費用としては、事務所内装・電気工事費に約 16 万円、新事務所敷金等に約 18 万円でした。皆さまのあたたかいお気持ちに深く感謝申し上げますとともに、あらためて身の引き締まる思いです。新年度も外国にルーツを持つ子ども達のために鋭意努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



イベント情報～おおさかこども多文化センター、および関係団体主催のイベントです～

▼ おおさかこども多文化センター設立1周年フォーラム

『トランスナショナルなこどもたち

—— わたしたちは何を知っているだろう？これから何が出来るだろう？』（仮称）

トランスナショナルなこどもたちの置かれている『今』を見つめ、

そのことばに耳を傾け、さまざまな分野からのパネリストの意見を聞きながら、

外国にルーツを持つこどもの“育ち”を一緒に考えてみませんか？

日時：2012年7月16日(月・祝) 14:00～16:30 (13:30 受付開始)

場所：未定 次号 OKoTaC 通信5号で場所も含め詳細をお知らせします。

参加費(資料代)：500円

主催：おおさかこども多文化センター

★現在『後援団体・後援者』募集継続中です！！

会員の皆さまへ：総会のお知らせ

おおさかこども多文化センターの平成24年度年次総会を、5月25日(金)午後6時から、当NPO事務所のある高砂堂ビル(下記地図参照)で開催いたします。

会員の皆さまには、あらためてご案内をさしあげますが、お目にかかれることを楽しみにしております！

会員大募集！

いつも OKoTaC 通信をお読みいただき、ありがとうございます。

おおさかこども多文化センターは、皆さまとつながり、とものつくるNPOです。外国にルーツを持つこどもたちのことをもっと知り、会員になって一緒に支えていきませんか？

・正会員：会費3,000円/年(別途入会金1,000円)

総会での議決権、NPO事業の企画に参画、イベント・学習会等に会員割引で参加、

OKoTaC通信の定期購読(郵送)や通信を使った情報発信、センター所蔵の資料の利用などができます。

・賛助会員：一口1,000円/年(何口でも)

OKoTaC通信の定期購読(データ配信)、センター所蔵の資料の利用などができます。

♪ お問合せは下記まで～ ご連絡お待ちしております ♪

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 高砂堂ビル8階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://www.osakakodomo.sactown.jp>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824
(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいじゅうじゅう)【店番】099
【預金種目】当座【口座番号】0272824)

加入者名『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
〔フリガナ：トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター〕

